

1 目的

総合事業の介護予防・生活支援サービス事業及び一般介護予防事業について協議する。

2 内容

開催日時	平成29年3月13日(月) 午後2時から午後3時30分まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：健康福祉部長、高齢者福祉課長(司会)、地域活動支援室長 高齢者福祉課長補佐、地域支援係長、前田主事、高木主事
場所	市役所東庁舎4階大会議室
内容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>平成28年度生活支援コーディネーター実績報告 山城生活支援コーディネーターから、別添資料に基づき説明。</p> <p>[協議]</p> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困りごとがあっても、どこに相談にいけばわからないということを知る。相談窓口の在り方についてどう考えるか。 <p>コーディネーター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困りごとには複雑な背景があるケースが多く、総合的に対応できるところが好ましい。現在の瀬戸市においては、まず地域包括支援センターが窓口となる。また、福祉総合相談窓口もある。 ・ 理想的なのは、相談者の身近な場所に相談先があること。 <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月から各町内の組長が集まる場において、各地域の困りごとを知る機会を設けようと思う。 ・ 瀬戸市においては、現在、第6次総合計画策定に向け議論を進めており、安全・安心のまちづくりを実現しようとしているが、やや抽象的になってしまいがちである。本当に実践していくためには、人と人とのつながりが大切であり、具体的な課題解決のため、実際に地域において課題を聞き取っていこうと思う。 <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括支援センターが、介護や高齢者に係る地域の困りごとに対応しているが、市内全域を網羅することには限界がある。地域における見守りのため、町内会などの地域団体による協力が不可欠である。 <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活圏域において課題解決に向けた取組みを行っているが、困りごとを抱えている人が大勢おり、容易に相談先を見つけられるよう、市民活動応援補助金を活用し「こまったときの便利帳」を作成した。これには生活支援コーディネーター含め、様々な地域団体が関わった。どのような方も気軽に読めるよう、イラスト、ふりがな、日本語の表現を容易にすること、にこだわった。 ・ 地域における課題は、障がい、子育て、外国人、など多岐にわたり、何でも

相談に乗れる場所が必要。

- ・ また、ただ単に毎日お茶を飲む場所も、困ったことを発見する場所としても有益である。

コーディネーター

- ・ 地域課題と資源をマッチングするためにも、各地域団体から、地域資源について情報提供をお願いしたい。
- ・ 地域力もすでに地域課題解決のための取組みを行っている。地域課題を共有していくことが必要。
- ・ 地域包括支援センターも対応しきれないだけの課題を抱えており、町内や組単位で相談に乗ることのできる場づくりが必要。

3 その他

瀬戸市介護予防・日常生活支援総合事業について

事務局から、資料1～4に基づき説明。

[協議]

委員

- ・ 地域課題解決のためには、第二層と第一層のコーディネーターの連携が不可欠。現在、第一層生活支援コーディネーターを社会福祉協議会が受託し、18の地区社協と連携して活動しているが、地区社協だけではなかなか対応することが難しいと思われる。また、これ以上地域包括支援センターに役割を担ってもらうことも厳しいであろう。第二層コーディネーターを早く配置する必要がある、第二層コーディネーター、協議体の配置についての検討時期を早めるべき。
- ・ 生活支援サポーター研修を1～2月に実施し、新たな人材を発掘することができた。第二層コーディネーターは、今後、地域の担い手になる人材発掘するためにも必要。第三層として活動している団体は数多くあり、第一層とつなぐ存在が必要であろう。

事務局

- ・ 生活支援体制の整備については、早めに方向性を定めていく。そのため、第二層コーディネーター配置の検討時期を早める可能性もある。
- ・ 今後、協議体において、やすらぎプランについても情報提供していくので、ご意見賜りたい。

